

IV. 部門の活動状況

2024年4月～2025年3月

医療安全管理室

課長 宮崎俊子

1. 任務、役割

- (1) クオリティマネジメント部内に配置し、院内の医療の質と安全の向上を推進するため、専従の医療安全管理者を置き以下の業務を行います。
- ①医療事故報告書の集約・集計・分析を行い、院内に発信します。
- ②医療事故再発防止において、部門や委員会など横断的に関わり、対策実施と有効性の評価の支援を行います。
- ③前年度の医療安全対策の課題から、次年度の目標設定や具体的着手立て、研修計画などを作成し、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して、院内の活動に展開していきます。
- ④毎週実施する医療安全対策評価カンファレンスにて、医療事故や医療安全相談事例の共有や、対策・再発防止策の検討と評価を行います。
- ⑤地域の医療機関の医療安全管理者と連携し、相互の医療安全文化の醸成につなげます。

2. 体制 1名 (2025年3月末日現在)

職種

薬剤師 1

3. 活動と実績等

年度初めに設定した目標計画に沿って、安全対策や職員教育を、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して実施しました。

1年間に報告されたインシデント報告（ひやりはっと事故報告）は、1,514件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。

日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。

発生した医療事故の集約を行い、専任医療安全管理事務局による検討や、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容について協議しました。

是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制 1名 (2025年3月末日現在)

職種

看護師 1名

3. 活動と実績等

- (1) 院内感染対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。
- (2) 医療関連感染サーベイランスの結果を感染対策委員会、ICT・ASTで共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。
- (3) 感染症の流行状況に合わせ、院内の感染対策の検討、対策に必要な物品・環境の整備を行いました。
- (4) 衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。
- (5) 院内で発生した、アウトブレイクに対し、感染対策委員会・ICT・AST・関係部門と連携し、早期収束に努めました。
- (6) 法人内・外における感染対策に関する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。
- (7) 法人内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。
- (8) 地域の連携医療機関や行政と連携し、高齢者施設スタッフを対象とした研修会を開催するなど、地域の感染対策に努めました。

外来看護科

看護長 武 智子

1. 任務、役割

2024年5月にERはハーフオープンしました。初療室2床と処置室7床で救急対応をしています。また、整形外科・乳腺外科・精神科・血液内科・脳神経外科・内視鏡検査・放射線検査・自己血採血外来・外来化学療法室を担っています。外来や病棟で発生した緊急内視鏡処置や外科的処置の対応も行っています。

2. 体制 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
看護師	39名	
専門看護師	1名	(緩和ケア・がん看護)
認定看護師	2名	(集中ケア、がん化学療法)
保健師	4名	
准看護師	2名	
看護助手	3名	内視鏡2名 整形1名

3. 活動と実績等

- ①2024年度の救急受け入れ件数は4,266件 搬入率は47.7%となりました。前年度よりも多い台数の救急車を受入れ、入院につながりました。
- ②薬剤師・臨床検査技師・臨床工学技師・診療放射線技師を中心としたタスクシフト・タスクシェアを行うことで検査や処置を円滑にすすめることがき、治療につなげることで、患者の外来滞在時間を短縮する事ができました。
- ③救急車だけではなく日中の時間外に来院された患者や地域の医療機関や施設からの紹介患者の受け入れを積極的に行ってています。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- ①2026年度のグランドオープンではERが広くなり処置室のベッド数が増床します。多くの患者を受けられるよう滞在時間の短縮と多職種との連携を更に強化していきます。
- ②内視鏡や特殊検査に対応出来るスタッフを育成し、臨時で発生する緊急処置にも昼夜問わず対応出来る環境作りをしていきます。

南2病棟看護科

看護長 中島美貴子

1. 任務、役割

一般内科と整形外科の混合病棟として対象患者の受け入れをしています。整形外科は主に上肢下肢の骨折や脊椎手術の予約入院と緊急入院を受け入れています。内科は特定の診療科ではなく、総合内科として幅広い分野の患者を受け入れています。

2. 体制 24名 (2025年3月現在)

職種	
助産師	1名
保健師	5名
看護師	18名
看護助手	2-3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

2024年5月に30床で整形外科と内科の混合病棟として運営開始し、40床へ増床しています。

整形外科の予約入院を1日1~2件から受け始め、6月からは予約・緊急入院全てを受け入れています。

術後は回復期リハビリ病棟への転科や、地域包括ケア病棟への転院を調整し、MSWとリハビリスタッフと共に退院支援に取り組んでいます。

内科は消化器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患だけでなく、インフルエンザやCOVID-19などを含めた感染症患者、緩和ケア、看取り方向の患者など幅広く受け入れています。

HCUからの転科や、術前血糖コントロール入院などを受け入れ、他病棟のベッド調整にも協力しています。

(2) 実績

①2024年4月～2025年3月

新入院患者数	979人
入院延べ人数	12,046人
平均在院日数	11.6日
平均占床率	59.5%
手術件数	459件

※4月まではC3病棟で15床運営、5月より南2病棟で30床からの運営となっています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉民医連 看護学会

「内科と整形外科混合病棟への取り組み」

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ①整形外科患者を受け入れる環境とスタッフ育成を進めています。
- ②各部門で協力し合いベッド調整することで緊急入院の受け入れ対応が出来るよう取り組んでいきます。
- ③スタッフが各委員会、係を含めた役割発揮が出来るよう取り組んで行きます。
- ④認知症を正しく理解し、身体拘束をしない看護を実践出来るよう取り組んでいきます。
- ⑤組織3課題をスタッフ全員で協力して達成出来るよう取り組んでいきます。

南3病棟看護科

看護長 小峰将子

1. 任務、役割

- (1) 病床数は57床です。
- (2) 消化器・呼吸器悪性疾患や良性疾患（胆石・虫垂炎・腸閉塞・単径ヘルニア等）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。また、急性腹症等の緊急入院にも積極的に対応しています。
- (3) 化学療法室と連携して、術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
- (4) 耳鼻科・眼科の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
- (5) 内視鏡的粘膜切除術の他、泌尿器科・皮膚科・ペイン・膠原病・緩和ケア移行期の患者様など、幅広い看護に取り組んでいます。

2. 体制 30名

職種

看護師	28名	(うち保健師3名)
看護助手	2名	

3. 活動内容と実績

(1) 実績

入院患者数	1,545人	(128.75人/月)
入院延べ人数	12,911人	
平均在院日数	8.92日	
病床利用率（占床率）	72.28%	
手術件数	541件	(緊急141件)
※外科系腹腔鏡下手術の件数：302件		
胸腔鏡下手術の件数：18件		

(2) 活動内容

- ①5月にC館4階病棟から南3病棟に引っ越しを行い、新規に耳鼻科・眼科の入院受け入れを開始、安定して受け入れ継続が行えました。
- ②主となる役割以外にも内科、整形外科の患者様も積極的に受け入れ、空床活用に努めました。
- ③がん医療においては、がん関連診療チーム、スタッフを中心に、外科のキャンサーサポートを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目なく取り組みました。
- ④外科医師による開業医訪問実施を共有し、緊急入院

の受け入れを積極的に行っていました。

- ⑤外科パンフレットの作成を行い、開業医訪問や医療懇談会で活用し、アピールを行いました。
- ⑥健康増進センターと協力して、大腸がん検診要精査の受診お知らせを作成し、受診率向上に努めました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 研修参加

- ・がんリハビリテーション研修会参加
- ・「聴す」共有－今どきの教え方と一緒に学ぼう－研修参加
- ・24' 「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修参加

(2) 発表（2024年度看護学会）

- ・A病棟における感染対策の現状と課題
－アウトブレイクからみえたこと－：岡田 早也
果
- ・胆管炎で入退院を繰り返した患者・家族の選択
－自宅で見た笑顔－：小峰 将子

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップ、救急対応力向上を目指します。
- (2) 多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
- (3) クリニカルパスの評価・修正を継続し、適切な治療・看護を提供します。
- (4) 地域からの緊急入院を積極的に受け、将来的にはがん患者紹介増加などにもつなげていけるようにします。
- (5) かかりつけ医との連携強化を目指します。

南4病棟・HCU看護科

看護長 三久保宏子

1. 任務、役割

南4病棟はHCU8床と、循環器疾患・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床42床を合わせた病棟です。多職種で患者様に関わる業務体制を整え、看護の質の向上をめざしています。また、医師の初期研修の場として、医師や看護師に限らず多職種がともに学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制38名（2025年3月末日現在）

職種	人数	備考
保健師	9名	
看護師	29名	非常勤含む
認定看護師	1名	皮膚排泄ケア
認定看護師	1名	集中ケア

3. 活動内容と実績

①HCU病床は、救急からの重症患者様、院内の急変患者様、手術後ハイリスク患者様などの重症管理が必要な患者様の受け入れを行い、入退室基準に沿って運営しています。

②認定看護師2名を配置し、重症治療管理のほか、身体的ケア・精神的ケア・家族ケアの実施、早期リハビリ介入や退院支援など看護の実践が適切に行えるように活動しました。

③一般病床では、患者様やご家族の意向を伺いながら、病気や生活とどのように向き合うのか、最期はどこで迎えるかを考えていただけるように支援しています。慢性疾患を抱えた患者様には、生活状況を確認し、病気を理解したうえで日常生活を送ることができるよう疾患別パンフレットを用いて指導を行いました。

実績（月平均）

入院患者数	一般 / HCU	74.5件 / 46件
平均在院日数	一般 / HCU	10.3件 / 4.4件
病床利用率	一般 / HCU	93.1% / 105.1%
心臓カテーテル検査		100件
内シャント造設術		26件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術		59件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

演題名	主催
HCUにおける術後管理の確立と質の向上について ～術後ファイルの作成から運用、その他取り組みも踏まえた評価～	第16回全日本民医連看護介護活動研究交流集会
安全な輸血療法を目指した看護師への教育活動	令和6年度群馬県輸血療法委員会総会
安全な自己血採血の標準化に向けた自己血輸血看護師の取り組み～13年の活動から振り返る～	第3回日本自己血輸血・周手術期学会フォーラム

5. 今後の展望・次年度に向けて

2025年度は南4病棟に戻り、リニューアルされたHCU8床を含めた病床のフル活用をしています。より一層救急患者の受け入れを効果的に実施できるように、医師をはじめ多職種と連携し、入院時からの退院支援や基準・手順の整備、専門性を持った看護師の育成を進めています。

南5病棟看護科

看護長 大森有紀

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期のリハビリテーションと退院支援を行っています。

2. 体制 30名

職種	
医師	2名
保健師	3名
看護師	15名
介護福祉士	9名
事務総合職	1名
※上記以外	社会福祉士2名、薬剤師1名、管理栄養士1名
	理学療法士11名、作業療法士8名、言語聴覚士7名（兼務）、歯科衛生士1名（兼務）

3. 概要、特徴、特色

回復期リハビリテーション病棟入院料3を算定しています。超高齢者に対応し、多職種チーム医療を展開し、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行っています。病床稼働率、在宅復帰率が高い実績があります。

(1) 実績

入院患者数	269人
退院転出数	258人
平均在院日数	61.2日
病床稼動率	95.9%
在宅復帰率	94.4%
重症患者回復率	76.2%
アウトカム評価（実績指標）	44.22

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望・次年度に向けて

独居で経済的に不安がある方には、必要な社会資源を紹介し、生活に困らないよう支援を行っています。リハ

ビリテーション以外の時間は、アクティビティとして、立ち上がり訓練や壁画作成、コーヒーを入れて季節を感じつつろぐ時間をつくっています。また、介護を行うご家族に対して介護者教室を行い、訓練食の試食、転倒時の対応、おむつ交換など体験していただきました。長期入院のなかでリハビリに向かうモチベーションを維持できるような声かけ、関わりをさせていただきます。

東2病棟看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

東2病棟は人工関節センターとして、人工関節置換術の周術期看護と退院後生活の質向上にむけ、機能的改善を重視した医療を提供しています。今年度は、知的・精神障害、重度認知症患者など周術期管理の困難な症例も多く受け入れ、個人の権を尊重し民連看護を実践してきました。病棟では常に患者様の要望に耳を傾け、入院生活が快適なものになるようスタッフ一同心がけています。

2. 体制34名

職種

保健師	2人
看護師	30人
看護助手	3人

3. 活動と実績等

新入院患者数	月平均 80人
延べ入院患者数	17,758人
平均在院日数	18.1日
病床利用率	92.61%
手術件数	912件
死亡数	0件

(1) 多職種連携することにより質の高い医療を実現し、平均在院日数を短縮することができました。また月平均80人の新規入院患者を受け入れ、昨年を上回る事ができました。

(2) 毎月の病棟会議では多職種とさまざまなデータを分析し、各種加算目標を達成することができました。

(3) 患者が意欲的に楽しくリハビリが行えるよう、季節ごとのイベントやスタンプラリーなど工夫を凝らして進めてきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1) 緊急入院を断ることなく受け入れる体制を整えます。

(2) さらなる周手術期看護のレベルアップを図ります。

(3) 入院早期からスクリーニングを行い、多職種と連携し退院困難患者の把握と早期介入を行います。

(4) リハビリ科と日常生活動作の獲得に向け協働し、さらなる在院日数の短縮を図ります。

(5) 患者主体の学習会やイベント、患者会による班会を再開し、満足度の高い療養生活を提供します。

東3病棟看護科

看護長 大西美希

1. 任務、役割

病床数32床。産婦人科に加えて乳腺外科の女性病棟として、術後や化学療法の患者様を中心に受け入れを行っています。

その他にも検査入院や術前の糖尿病管理、内科疾患の受け入れも行っています。

小児科、地域との連携も密に行なながら、妊娠・出産・育児が安心して行えるよう支援しています。

女性とその家族の一生を支えることのできる部門を目指して、今後も切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制35名 (2025年3月末日現在)

職種

助産師	27名
看護師	6名
准看護師	1名
看護サポート	1名

資格	人数
日本助産評価機構認定 アドバンス助産師	5名
NCPR (一次Bまたは専門A)	26名
NCPR 専門コースインストラクター	1名
ALSO プロバイダー	(3名)
J-CIMELS	(1名)
IBCLC	(1名)
ICLS	6名
災害支援ナース	1名

3. 活動と実績等

(1) 実績

新規入院患者数	1,056人
転入患者	67人
入院延べ患者数	6,327人
1日あたり患者数	20.1人
平均在院日数	6.6日
平均占床率	61.5%
分娩件数	257件
帝王切開	71件
婦人科手術件数	253件
乳腺入院患者数	91件
乳腺手術件数	65件
他科受け入れ件数	180件

(2) 総括

- ①乳腺外科外来の対応のできるスタッフの育成をすすめ、外来運営がよりスムーズに行えています。
- ②引き続き、EMRなどの検査入院の受け入れと内科疾患治療の看護、ペインや術前糖尿病管理、小児耳鼻科手術の受け入れ、睡眠時無呼吸症候群検査入院など、スタッフ教育をすすめながら受け入れを広げていきます。
- ③感染防止対策の基準を見直し、妊娠さん、患者、ご家族のニーズに合わせた面会方法の見直しを行いました。
- ④感染防止対策を徹底し、助産学校2校、看護学校4校の実習受け入れを行い、医療従事者の人材育成に貢献することができました。
- ⑤「いのちの授業」では小学校1校、中学校3校、夏休み公開講座、健康フェスタでの講座、更年期や月经トラブルの講義を行い、ヘルスプロモーション活動を増やすことができました。
- ⑥産後ケア事業では、川口市、さいたま市、草加市からの委託を受け、断らない受け入れを徹底しました。
- ⑦外国人妊娠の対応については科内での検討をおこなながら、可能な限り受け入れを行ってきました。
- ⑨Instagram、産婦人科のホームページの見直しで、アピールができました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

○埼玉県看護協会 助産師職能委員会に参加

○いのちの授業

所沢市 富岡中学校

上尾市 大石南中学校

平方東小学校

夏休み公開講座

高校生一日体験

中学生夢ワーク

○健康フェスタ

5. 今後の展望、課題

2026年度の産婦人科、乳腺外来の移転に向け、よりスマートな外来運営に繋げていけるよう、しっかりと準備をすすめていきます。地域医療に貢献していきます。

東4病棟看護科

看護長 渡邊千賀子

1. 任務、役割

2024年5月に小児病棟と消化器内科、呼吸器内科を中心とした混合病棟にリニューアルいたしました。

地域に密着した急性期病院の役割を果たせるよう、入院時から退院後生活を見据えた援助を行い、病態に合わせ多職種で関わり、看護介入を行っております。

2. 体制31名

職種

保健師	4名
看護師	27名
病床数	58床

3. 活動内容と実績

(1) 活動内容

- ①小児科では新生児から中学3年生までの小児内科疾患、食物経口負荷試験などの検査入院、小児の骨折、耳鼻科手術、消化器外科（虫垂炎、鼠径ヘルニア）の手術患者様の受け入れもしております。
- ②小児科外来や産婦人科と連携して妊娠期から継続した子育て支援が出来るように日々努めています。小児虐待対策チームの活動を継続し、地域連携を大にし、地域との情報共有を行っています。入院中は保育士が生活や発達状況、育児についてなど相談や支援させていただきます。
- ③消化器疾患分野では食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。
- ④呼吸器疾患分野では肺癌の治療や酸素の評価を行い在宅酸素、在宅呼吸器を導入し在宅への退院を支援しています。
- ⑤悪性疾患においてはキャンサーボードを行い多職種で方針を検討し、化学療法の導入や緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、疼痛緩和やQOLの向上、患者様やご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。また、独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種でカンファレンスを行い退院支援に取り組んでいます。

(2) 実績

新入院患者月平均人数	129.1人
入院延べ患者数	16,305人
平均在院日数	10.7日
占床率(病床稼働率)	88.7%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 全日本民医連 消化器研究発表会 「モーニングケアによる患者への効果～タスクシェアによる取り組み～」
- (2) 埼玉民医連 看護学会「小児医療を取り巻く環境の現状と今後の展望」

5. 今後の展望

- 1. 各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。
- 2. がんと診断されたときから患者様の意向に沿いながら治療や緩和ケアが受けられるように支援します。
- 3. 地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。
- 4. 小児科分野の知識や技術の向上、地域連携に力を入れていきます。

東 5 病棟看護科

看護長 森 直美

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し、支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が緩和されたら在宅調整の支援を行う等、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制 19名

職種

看護師	16名
保健師	2名
緩和ケア認定看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

新入院患者数	197人
転入院患者数	90人
退院患者数	279人
死亡退院数	205人
在宅復帰率	24.3%
即日入院	48人
平均在院日数	24.1日
平均占床率	91.3%

(2) 特徴

地域から求められる役割として、患者様の状態に応じ緊急入院を積極的に受け入れると共に、社会的入院や長期療養の患者様の受け入れも行い、地域のニーズに応えられるよう努めています。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施し、つながりを深めています。

(3) 特色

各病室内にトイレ、洗面台、大きな窓が設置された全室個室です。見晴らしのよい5階には、ベッド、車椅子で散歩できるテラスも設置されています。

病棟ではカンファレンスを重ねながら患者様にとって必要なケアを多職種とともに日々考えています。患者様の日常に寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めています。

患者様やご家族にとっての最善を常に考え続けケアにあたっています。緩和ケアチームとの連携を図りながらより専門的な緩和ケアの提供を行っています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

演題名	主催
難治性がん疼痛緩和の地域医療 ～くも膜下ポート造設患者の在宅調整からみえた課題～	第29回 日本緩和医療学会 学術大会
緩和ケア病棟面会制限変更に向けての取り組み	第10回 埼玉民医連 学術・運動交流集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- 多職種で連携し充実した緩和ケアの提供を図ります。
- 緩和ケアの質向上に取り組みます。
- 充実した緩和ケアの提供のため、病棟スタッフのスキルUPを図ります。

北2病棟看護科

総看護長 須田登志江

1. 任務、役割

外来

慢性疾患外来（専門外来）、急患内科外来、外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、訪問診療、健康増進センターを担っています。患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養を続けられるよう、多職種で連携してサポートしています。健康増進センターでは、健診受診者への保健指導や、健診後のフォロー等を行い、健康づくりをサポートしています。

病棟

2023年9月開設し、2024年3月に地域包括ケア病棟として認可され1年が経過しました。在宅復帰率や、在院日数を意識した病棟運営を行ってきました。また地域からの要請にも応え、成人、医療ケア児のメディカルショート入院や、急性期病院から治療が終了した患者の支援目的の入院を積極的に受け入れてきました。

2. 体制 名 (2025年3月末日現在)

職種

保健師	15名
看護師	49名
准看護師	8名
視能訓練士	3名
看護補助者	8名 常勤4+非常勤4
事務総合職	1名

※上記以外：社会福祉士1名、薬剤師1名、管理栄養士1名
理学療法士3名、作業療法士2名
言語聴覚士1名

3. 概要、特徴、特色

・2024年3月より地域包括ケア病棟として許可され1年が経過しました

地域包括ケア病棟は急性期医療と在宅をつなぐ存在です
地域包括ケア病棟では3つの役割が期待されています。

- ①急性期病棟からの患者受け入れ（ポストアキュート）
- ②在宅や施設からの患者受け入れ（サブアキュート）
- ③介護支援の為の受け入れ（レスパイトケア）

上記3つを満たすため以下を行っています。

・毎日判定会議を多職種で行い、患者を受け入れていま

す。

- ・医療ケア児のメディカルショート入院を継続しています。本人や家族の要望を受け入れながらケアを行ないました。
- ・訪問診療と連携し、レスパイト入院を積極的に受け入れました。
- ・未来院患者や中断患者のフォローを行い、療養継続できるよう支援しています。
- ・毎週、多職種での気になる患者カンファレンスや緩和カンファレンスを実施し、各診療科と連携しながら患者の情報共有やフォローにつなげています。
- ・訪問診療の新規受け入れ手順を見直し、よりスムーズに受け入れができるようになりました。

(1) 実績 (2023年9月～2024年2月)

入院患者数	746人
退院転出数	741人
平均在院日数	25.1日
病床稼動率	94.4%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

・「思春期の子どもをもつ親への子育て講座の実践報告」
(第18回全日本民医連小児医療研究発表会、埼玉民医連看護学会)

5. 今後の展望・次年度に向けて

・地域包括ケア病棟として、急性期医療と在宅をつなぐ役割を継続するとともに、多職種連携によるチームの活動力を発揮し室の高い専門的なケアが提供できるようにしていきます。また退院調整を円滑に進めるために、地域の専門職と連携し、退院後の生化環境を整えていきます

以下を実践していきます。

- ・緩和ケア
- ・栄養サポート
- ・認知症ケア
- ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）
- ・退院支援の充実
- ・日常生活操作の強化（10ケアの推進）
- ・誰もがかりやすい外来を目指し、地域のニーズに応えられるよう、多職種で連携し質の向上・対応力の強化を図っていきます。

透析看護科

看護長 砂川千恵子

1. 任務、役割

透析室では外来患者及び入院患者の血液透析を行なっています。透析導入を始め他施設での透析患者を含めシャント PTA、手術・検査やリハビリ目的など予約入院の他、ER や他施設からの紹介で緊急入院、緊急透析が必要とされる方を断らず受け入れをしています。

透析看護科では、院内外の連携を図りながら、安全な血液透析の提供と療養支援、シャント PTA 介助、透析時運動療法、フットケア、看護面談等を通して急性期対応及び維持透析患者の QOL 向上をサポートしています。また、ふれあい生協病院外来と連携し糖尿病患者への透析予防や腎症患者への透析導入前療養支援、透析看護外来を実施しています。

2. 体制21名 (2025年3月末日現在)

職種	人数
看護師	12名
准看護師	2名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

(1) 活動内容

- ①移設に向けた建設プロジェクトを ME と合同で立ち上げ、引っ越しスケジュールの具体化、コンソール 学習会と計画的なトレーニングを実施しました。また、ベッド配置など環境設定や業務が円滑に行えるようにシミュレーションを行い、大きな混乱もなくリニューアルを迎ました。
- ②全維持透析患者へかゆみ症状の聞き取りを共有テーマに看護面談を実施しました。年一回を目標に受け持ち患者の進捗をサマリー記載するように取り組みを開始しました。
- ③新たに QI チームを立ち上げ検査データの推移を元に推奨値が逸脱している患者をリストアップし、透析医療チーム会議や合同カンファレンスで情報提供しました。多職種カンファレンスを適宜開催し、個々のアプローチを行いました。
- ④毎月全患者へフットチェックを実施し、足病変の早期介入に努め、下肢切断患者の発生はありませんでした。

⑤透析期間の長期化から、透析通院が継続できる ADL を維持するために透析時運動療法は必要不可欠と考え、多職種チームで取り組ましたが、血圧高値で運動療法が実施できない患者が多い事も認識されました。

⑥RRT の助言・指導のもと急変時対応訓練を実施し 転送先の検討など課題も明らかにしました。

⑦防災訓練を計画的に実施しました。

(2) 実績

年間透析件数	9,629件
新規透析導入数	22人
外来透析管理患者数延べ	665人
入院透析管理患者数延べ	329人
シャント拡張術	87件
内シャント造設術	28件

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 維持透析患者に対し、血圧コントロールを目指した 塩分制限へのアプローチを HPH の視点で実践していく。
- (2) 維持透析患者の安定した透析療法を支え QOL 向上 や ACP に寄り添った個別看護の実践をすすめます。
- (3) 維持透析患者への療養指導の質評価として臨時 ECUM の件数に着目し、行動変容につなげるアプローチを目指します。

手術看護科

看護長 斎藤今日子

1. 任務、役割

手術室では周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう、正しい知識を身に付け、常に最新の技術を提供しています。

2. 体制28名 (2025年3月末日現在)

職種

周術期管理チーム認定看護師	1名
術後疼痛管理チーム認定看護師	5名
自己血輸血看護師・臨床輸血看護師	1名
看護師	27名
准看護師	1名
看護助手	5名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

今年度は看護師人数の減少もあり、周術期看護の質を下げず、安全な手術環境を提供していくとスタッフ一丸となって頑張ってきました。手術後は一人でも多くのベッドサイドに訪問できるよう心がけ、訪問率95%以上を維持できています。全身麻酔件数も2,162件と過去最高件数となり、定時手術だけでなく緊急手術の受け入れが増えたことも大きく影響していると思われる。

また、ペイン外来は今年度からは週1.5日の外来体制に拡大し、処置室も改修工事にて使用しやすい環境となったため、より多くの神経ブロックを必要とする患者様の受け入れができるようになりました。2023年度の利用者数1,841人から2024年度の利用者数は2,112人と、大きく増加しています。2025年度は週2.0日の外来体制にさらに拡大するため、利用者数の増加が期待できます。

(1) 手術実績（前年比）

各科手術件数	2,649件 (101.6%)
	外科613件、整形外科1,571件、産婦人科263件、腎臓内科32件、耳鼻咽喉科103件、眼科103件
全身麻酔手術	2,162件 (111.4%)
術前訪問件数	2,001件 / 外来手術は対象外
術中訪問件数	123件 / 3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	2,248件

(2) ペイン外来実績

年度	2018	2019	2020	2021	2022
外来件数	951	958	1,005	1,395	1,489
年度	2023	2024			
外来件数	1,841	2,112			

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

〈埼玉民医連看護学会〉

「手術看護業務のタスクシェア／シフトの円滑な継続に向けて」～手術室業務に携わる各職種の意識調査を通して～

〈学術運動交流集会〉

「手術見学再開により得られた効果と今後の課題」～周術期看護の連携強化に向けて～

〈医療活動交流集会〉

「眼科手術 2 病院化による効率化について」

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) スタッフ育成
- (2) フリー枠の有効活用
- (3) 周術期看護の連携強化
- (4) ペイン外来の拡充
- (5) 他職種のタスクシフト / シェア(薬剤師の1日常駐、臨床工学技師の器械出し業務自立者の増員)
- (6) A館3階引っ越し後の有効活用

看護育成課

看護長 高橋里美

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人財の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。私たちのビジョンは、民医連の看護の継承と、一人ひとりの看護観の実現を支援することです。

2. 体制 3名

職種

助産師	1名
看護師	2名

3. 活動内容と実績

(1) キャリア 1 (看護1～3年目職員) 育成

キャリアアップ委員会のもと、看護教育センターとしての機能を有し、教育要綱に沿って 北部・西部・中南部サポートセンターと連携しながら看護職員を育成しています。教育担当者・指導者の育成支援も行なっています。

看護支援システム（ナーシングスキル）も活用しています。

①新人看護職員研修

テーマ 「患者を見る力につける（アセスメント力強化）」
集合研修での技術演習や集中講座、OJTを組み合わせた研修を行いました。看護実践トレーニングシート活用でアセスメント力を養いました。

②2年目・3年目看護職員研修

2年目 「患者の思いを引き出す力につける（対象理解）」

3年目「患者の社会的背景を捉える力につける（患者を多角的・全人的に捉える）」

2年目はいのちの章典や健康について、3年目は健康の社会的決定要因を学び、事例やフィールドワークを通して互いの経験を共有することで成長の機会となりました。

(2) 経験者入職時の支援

見学者対応、入職時オリエンテーションと、入職後の定着と不安軽減を目的とした1ヶ月後面接を行なっています。

(3) 看護学生・高校生への関わり

①看護学生実習受け入れ状況（2024年5月～2025年3月）

10校・実人数317名を受入れました。

学校（県内・県外）	学校数	実人数
大学	6	197名
専門学校	2	120名
助産実習	2	6名

②中高校生企画（看護学生委員会と共に）

高等学校への出前授業2回、県民の日に多職種合同で医療職体験を開催し、将来の職業選択を考える事につながりました。高校生向け看護体験11回174名、受験のための模擬面接を2回開催12名対象に実施しました。

中学生1校4名の職業体験受入れを行いました。

③看護学生企画：就職説明会+インターンシップ10回、個別対応28回、低学年向けインターンシップ1回、24校149名を受け入れました。

看護サポート

主任 高田千春

1. 任務、役割

看護補助業務として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、業務を遂行します。また看護師と看護補助者が協働する中でより質の高いケアを提供できるよう日々職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制42名（2025年3月末日現在）

職種	人数	備考
看護助手	9	常勤
看護助手	37	非常勤

3. 活動と実績等（教育計画）

- ・医療安全学習（車椅子移乗移動介・食事介助・口腔ケア）
- ・感染対策学習（手指衛生とPPEの着脱）
- ・排泄介助の技術学習会
- ・BLS講習会
- ・ユマニチュードケアについての学習会
- ・感染症の基礎知識（インフルエンザ・新型コロナウイルス）
- ・LGBTQについて人権学習

薬剤科

科長 木村典子

1. 任務、役割

「私たちは、安全な薬を安心・納得して使える社会をつくるために働きます」という部門理念のもと、全病棟に担当薬剤師を配置し、服薬指導、医薬品の安全管理の取り組みを進めてきました。

ICT、がん化学療法、NST、緩和、術後疼痛管理など各診療科チームの活動にも積極的に関わっています。

外来救急室では入院決定患者への初回服薬指導や薬剤混注、中毒対応を行っています。

術前外来では薬歴の聴取と休薬管理を行っています。

手術室では厳重な管理を要する医薬品の管理や局所麻酔薬の混注等を行っています。

がん化学療法ではキャンサーボードに参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計に関わっています。外来ではがん患者の治療をさらに充実させるため、保険薬局との薬薬連携会議を定期開催し、がん薬物療法連携充実加算を活用し治療継続の情報の共有を強化してきました。また、薬剤師による副作用評価の問診にも着手し医師・看護師の業務軽減を進めてきました。

2. 体制 薬剤師34名 薬剤助手5名

職種	人数
薬剤師	協同 常勤29名（うちAST専従1名）・ 非常勤3名
	ふれあい2名
薬剤助手	5名

■新規資格取得

認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、診療情報管理士、埼玉県肝炎コーディネーター、心不全療養指導士

3. 概要、特徴、特色

①調剤 処方枚数・院外発行率

- 1) 外来処方箋 協同3,901枚 / 月 ふれあい7,340枚 / 月
- 2) 院外発行率 95.4%
- 3) 入院処方箋 協同6,833枚 / 月 ふれあい695枚 / 月

②注射 セット率・加算実績

- 1) 注射セット率 (Rp) 82.4%
- 2) 無菌製剤処理 1 (閉鎖式接続器具使用) 8件 / 月
- 3) 無菌製剤処理 1 (その他) 55件 / 月
- 4) 無菌製剤処理 2 14件 / 月

③薬剤管理指導業務

- 1) 入院服薬指導実人数 702人 / 月
- 2) 退院時薬剤管理指導数 646人 / 月
- 3) 病棟薬剤業務実施加算 1,370 / 月
- 4) 薬剤総合評価調整加算 100点35.6件、150点14.8件 / 月
- 5) 退院時薬剤情報連携加算30.8件 / 月
- 6) 周術期薬剤管理加算144.8件 / 月

④がん薬物療法実績

- 1) 外来化学療法件数 84.9件 / 月
- 2) 入院化学療法件数 11.7件 / 月
- 3) がん患者指導管理料ハ 6.5件 / 月
- 4) がん連携充実加算39.7件 / 月
- 5) がん化学療法レジメン管理数 247件 / 年
(新規14件 (+ 2件非がんレジメン) 改定7件 削除0件)
- 6) キャンサーボード開催回数 105回 / 年

⑤特定薬剤治療管理料 1 (バンコマイシン) 78件 / 年

⑥DI 業務

- 1) 疑義照会件数 1,999件 / 年
- 2) DI ニュース 12回発行 (No.657～668)

⑦安全管理業務

- 1) 副作用報告 全日本民医連 / 厚労省 (PMDA 20件 / 年)
- 2) 医薬品副作用被害救済制度 申請 8件 / 年
- 3) プレアボイド報告 714件 / 年

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

①第34回薬剤師部会学術集会

- ・グラム陰性桿菌菌血症における抗菌薬治療期間短縮へのアプローチ
- ・イメグリミン塩酸塩錠によるコレステロール値の影響調査
- ・せん妄予防に対するロナセンテープの使用評価および有効性
- ・当院における周術期薬剤管理の取り組みと課題
- ・当院でのアントラサイクリン系薬剤使用患者のモニタリング状況の調査と心不全管理のシステム構築について

②日本病院薬剤師会 関東ブロック第54回学術大会

- 埼玉病院薬剤師会 第22回学術大会
- ・服薬情報提供書を活用した薬薬連携 ～安全な薬物療法を進める取り組み～
- ③救急医療研究会・総合診療研究会 第5回学術交流集会
- ・薬剤師 ER 常駐の取り組み

5. 今後の展望、次年度に向けて

- ①手術室全日常駐を開始します
- ②医師の診察前問診を強化し、がん薬物療法体制充実加算の算定を開始します

検査科

部責任者 大山美香

1. 任務、役割

- (1) 迅速に正しい検査データを提供して早期治療へ繋がるように努めます。
- (2) 適正な検査が行えるよう院内への情報提供とともに安全な検査が実施されるよう働きかけます。

2. 体制 38名 (2025年3月末日現在)

臨床検査技師	人数
埼玉協同病院	常勤26名 非常勤3名
ふれあい生協病院	常勤7名 非常勤2名

〈技師取得認定〉

認定・資格	人数
細胞検査士	4名
認定血液検査技師	2名
認定輸血検査技師	2名
超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	3名
超音波検査士（循環器）	1名
2級臨床検査士（血液）	1名
2級臨床検査士（病理）	2名
緊急臨床検査士	6名

3. 活動と実績等

- (1) タスクシフト / シェアの一貫として検査後の病棟患者移送を積極的に取り組みました。
- (2) 2024年5月から週1回ER業務を開始しました。
 - ①搬入された患者のモニターの装着及びバイタル測定
 - ②採血に伴った静脈路確保や血液培養採取
 - ③検体及び患者を検査室へ搬送
 - ④心電図検査や超音波検査
 - ⑤検査の調整（至急の塗抹検査や超音波検査）

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 第52回 埼玉県医学検査学会
 - ・タスクシフト / シェアによる業務拡大とその効果～医療の最前線で頼られる検査技師～
 - ・当院における時間外血液培養検査結果報告についての取り組み

- (2) 救急医療研究会・総合診療研究会 第5回学術交流集会
 - ・「タスクシフトによる救急室業務開始と効果」

5. 今後の展望、次年度に向けて

- (1) 埼玉協同病院およびふれあい生協病院の職員が協力して地域住民に質の高い医療を提供していきます。
- (2) 全世代が研修会や学会に積極的に参加し、各検査分野の認定資格取得などをすすめ専門性の高い職員育成に取り組みます。
- (3) タスクシフト / シェアを積極的に取り組み、チーム医療に貢献していきます。

放射線画像診断科

科長 北原弘治

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 30名

診療放射線技師	人数
埼玉協同病院	常勤24名
ふれあい生協病院	常勤名5名 非常勤1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 特徴

埼玉協同病院は救急・整形・病棟から依頼される検査を中心に業務を行っています。一般、CTだけでなくMRI、X線TV、血管造影など複数のモダリティを有し、検査から治療分野に至るまで幅広い業務を担っています。

ふれあい生協病院は外来・健診を中心とした業務を行っています。画像を提供するだけでなく、画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォローモードを確立し、毎日の業務としています。

(2) 技師取得認定

認定・資格	人数
放射線管理士	8名
放射線機器管理士	6名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4名
超音波検査士（消化器）	2名
超音波検査士（体表臓器）	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名

(3) 施設取得認定

医療被ばく低減施設認定

マンモグラフィ検診施設画像認定

(4) 実績 2024年1月～2024年12月

検査名	検査数（協同）	検査数（ふれあい）
一般撮影	31,181	11,567
ポータブル撮影	12,029	486
乳房X線撮影	1,144	—
骨塩定量測定	1,796	—
CT	12,914	6,348
MRI	7,101	—
X線TV	889	—
血管造影	341	—
超音波	2,877	2,492

4. 教育、研修、研究活動

- (1) 埼玉県放射線技師会 第一部第2回勉強会
・変形性股関節症及び変形性膝関節症治療の紹介

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 埼玉協同病院、ふれあい生協病院一体での研修計画を策定し、専門性を高める職員研修に取り組んで行きます。
- (2) 放射線画像診断科症例発表会をはじめ医師による勉強会、気になる症例会を開催し読影・知識向上に取り組んでいきます。
- (3) 各検査の読影フォローを継続的に行い検査結果が確実に診療に活かされるように取り組んでいきます。
- (4) 医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。
- (5) 告示研修の受講を進めるとともに、静脈穿刺開始に向けた取り組んで行きます
- (6) 地域医療機関からの検査紹介を積極的に受けいきます。
- (7) チーム医療の一員として救急医療に積極的に関わっていきます。

リハビリテーション技術科

科長 吉田知行

1. 任務、役割

(1) 病棟及び外来・在宅におけるリハビリテーションの機能と役割
医師の指示のもと理学療法・作業療法・言語療法・摂食機能療法・口腔ケアを実施し、患者様、ご家族様を中心に、医師、コ・メディカル、ケアマネージャーなどと協力し、社会復帰を目指します。

①回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリテーションを実施します。質の高い生活が行えるよう、その方にあったリハビリテーションを提供します。

②整形外科病棟

入院直後より退院後の生活を想定し、退院後も獲得した能力が維持できるようリハビリテーションを提供します。

③内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。廃用症候群などの二次的合併症の予防を行います。

④外科病棟

手術前後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。術前呼吸リハビリテーションや術後の廃用症候群などの二次的合併症の予防など行います。

⑤緩和ケア病棟

患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリテーションを提供します。

⑥地域包括ケア病棟

在宅退院を目指し機能訓練や日常生活動作訓練を行います。また多職種と連携し環境調整やサービス調整を行います。

⑦外来リハビリテーション

在宅生活を送る上での疑問や工夫などを常に確認しながらリハビリテーションを提供します。

⑧訪問リハビリテーション

自宅退院直後からご自宅でのリハビリテーションを行い安心してご自宅での生活が送れるように支援します。

2. 体制 (2025年3月末日現在)

埼玉協同病院	69名
理学療法士	41名
作業療法士	18名
言語聴覚士	7名
歯科衛生士	2名
事務	1名
ふれあい生協病院	7名
理学療法士	3名
作業療法士	3名
言語聴覚士	1名

3. 活動と実績等

①一般病棟

- ・入院3日以内介入率 80.8%
- ・入院7日以内介入率 96.2%

②回復期リハビリテーション病棟

- ・実績指数 44.2
- ・患者一人当たり1日提供単位数 5.0単位

③地域包括ケア病棟

- ・在宅復帰率 85.6%
- ・患者一人当たり1日提供単位数 2.3単位

④訪問リハビリテーション

- ・1ヶ月当たり訪問件数 163件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- ・臨床実習指導者講習会へ参加。
- ・川口市地域包括ケア学会
「若年高次脳機能障害者を地域で支える」
- ・歯科学術活動交流集会

5. 今後の展望、次年度に向けて

2025年を向かえ、今後、超高齢社会が加速していく事が考えられる。病院内外の医療、介護、福祉事業と連携しその資源を活用する事で地域の健康寿命の延伸に貢献していきたい。

食養科

科長 松本 茂

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、入院患者様へ安心・安全な食事を提供します。

また必要な方へは退院前に食事相談を実施し、退院後も切れ目ない食支援が行えるようにします。施設やかかりつけ医へは、食形態や食事内容等の情報提供を行います。

外来では個別または集団の栄養指導や、乳児検診・うぶ声学校等各種教室を実施し、望ましい食生活を学べる環境づくりを行います。

地域では、料理教室やすこしお班会などを開催し、健康増進活動にも積極的に取り組みます。

2. 体制 50名

職種

管理栄養士	19名（うち非常勤職員3名）
調理師	11名
非常勤調理員	19名
非常勤事務	1名

※2.23.8～管理栄養士5名（非常勤3名含）ふれあい 生協病院所属

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績（年間件数）

外来食事相談件数	1,817件（うちふれあい1,357件）
入院食事相談件数	2,815件（うちふれあい57件）
集団食事相談件数	30件
在宅食事相談件数	2件
特定保健指導件数	487件
入院患者食数	314,578食（月平均26,215食）
特別食加算の割合	月平均 46.6%
1食あたり食単価	月平均 499円

(2) 活動内容

- ① NST回診 週1回
- ② 褥瘡回診 週1回
- ③ 緩和回診 週1回
- ※④アレルギー外来 週2回
- ※⑤乳児健診 週1回
- ※⑥糖尿病集団指導外来（はじめ外来） 週1回
- ⑦うぶ声学校 月1回

⑧各種教室（子育て・介護者等）

(3) 給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックタルシステムを導入し、熱風再加熱配膳カートにて食事を提供しています。2025.1からは自院給食を再開し、温かいみそ汁やパンの選択もできるようになりました。

4. レストラン虹の森

2023.6から休業となっています。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 直営給食の強みを生かし、調理師による嗜好訪問やミールラウンドを強化して食事満足度の向上に努めます。
- (2) 業務効率を追求しながらも必要な患者様への個別対応の充実もはかります。
- (3) 2病院間で管理栄養士の連携をはかり、双方で入院・外来食生活相談および保健指導件数を増やすことで、経営に貢献します。
- (4) 周術期の栄養管理が確実に行える仕組みを作り、多職種と連携して取り組みます。
- (5) 仕事にやりがいを感じ、あたりまえに育ちあえる職場風土を築き、民医連職員として力を発揮できるようになります。

ME科

科長 岡本雪子

1. 任務、役割

- (1) 安心して使用できる医療機器の管理をします
医療機器の専門職として点検・修理等、ME 機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。
- (2) 専門職としてのスキル向上に努め、チーム医療の一員として力を発揮します。
- (3) 医療機器に関する事故ゼロを目指します
予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。
- (4) 外来維持透析だけでなく CRRT、アフェレンス療法などを行ない、24時間体制で患者の命を守ります。
- (5) 在宅療養をされる患者様へ支援します
在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方法の説明を行い安心して療養生活が送れるよう支援します。

2. 体制 17名 (2025年3月末日現在)

職種

臨床工学技士 17名

<専門資格>	人数
認定血液浄化臨床工学技士	1名
透析技術認定士	4名
透析技能2級	1名
3学会合同呼吸療法認定士	4名
第2種ME技術者	11名
医療機器情報コミュニケーション(MDIC)	1名
医療安全管理者	1名

臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修（告示研修）は17名修了

3. 活動と実績等

2024年度 ME 科月報

	2024年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
MEによる修理件数	1	4	6	8	8	0	6	5	4	5	1	1	49
メーカーによる修理件数	8	9	10	5	7	7	6	8	8	8	6	11	93
職員の不注意による機器破損件数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
装置の不具合による事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工呼吸器(NPPV含む)貸出件数	34	60	22	37	29	29	59	40	60	89	37	36	532
HOT指導件数	9	5	3	1	7	6	7	3	6	4	6	11	68
CPAP指導件数	4	0	2	3	0	1	1	3	3	1	1	1	20
在宅人工呼吸器指導件数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
その他ME機器指導件数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	4
ペースメーカー新規導入件数	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ペースメーカー交換件数	2	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	7
ペースメーカー外来件数	16	36	24	25	21	19	19	31	22	20	23		256
自己血回収装置操作件数	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1	0	0	5
神経モニタリング操作件数	5	4	5	5	4	3	3	1	4	3	3	4	44
シャントエコー件数	13	22	15	18	19	15	22	23	23	21	25	22	238
フットチェック件数	10	10	13	13	14	14	14	14	14	14	13	13	156
SCS外来件数	1	0	4	2	1	1	2	2	3	3	1	0	20
麻酔補助件数	16	21	34	32	25	20	23	24	24	20	0	3	242
ESD/EMR直接介助件数	38	35	34	38	39	32	40	32	37	34	31	37	427

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	市川宗賢 (臨床工 学技士)	麻酔補助業務 をはじめて	第34回日本 臨床工学会	フェニックス・プラザ、 ザ・グランユーズフクイ(福井県)
①	桐生宣侑 (臨床工 学技士)	当院における 臨床工学技士 の取り組み (RRT)	第4回関東 甲信越臨床 工学会	大田区産業 プラザ PiO (東京都)
①	市川宗賢 (臨床工 学技士)	ささえ TM フランジ固定板による 気管切開チューブの固定	第48回全日本民医連呼 吸器疾患研 修会 in 福 岡	アクロス福 岡大會議室 (福岡県)
①	木村貴史 (臨床工 学技士)	内視鏡診断支 援機能 「CADEYE」の 導入後の上部 内視鏡検査の 変化を見る	第21回全日 本消化器研 究会 in 大 阪	TKPガーデ ンシティリ バーサイド ホテル (大 阪府)
②	篠塚陽子 (臨床工 学技士)	タスクシェア の軌跡と展望	埼玉協同病 院 (2025年 1月17日)	埼玉県
③	三上雄気 (臨床工 学技士)	ファイル転送 装置による個 人情報保護と ペーパーレス 化	埼玉協同病 院 (2024年 12月14日)	埼玉県
③	山口颯太 (臨床工 学技士)	内視鏡治療の 現状と今後の 展望・課題	埼玉協同病 院 (2024年 12月14日)	埼玉県
③	市原未来 (臨床工 学技士)	超音波装置を 用いた透析患 者のシャント 管理について	埼玉協同病 院 (2024年 12月14日)	埼玉県
③	市川宗賢 (臨床工 学技士)	タスクシェア の軌跡と展望	埼玉協同病 院 (2024年 12月14日)	埼玉県

区分 : ①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民
医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医
連介活研

会場 : ZOOM

- 新たに透析室から血液浄化センターに名称を変更し、血液透析だけでなく急性血液浄化・アフェレシスを含めた包括的な血液浄化療法を行う。またシャントエコーを含めたバスキュラーアクセスの管理を行いセンターとしての機能をもつ。

5. 今後の展望、次年度に向けて

- 麻酔補助業務やスコープオペレーター、内視鏡直接介助などタスクシフト・タスクシェアを推進しより専門性の高い臨床工学技士として業務を確立する。
- 臨床工学技士の夜勤業務を見据え、日曜日勤を開始し365日勤務は臨床工学技士が常駐している環境を作る。

総合サポートセンター

事務次長 高波奈津代

1. 任務、役割

- ①患者・家族、地域の医療機関、施設・事業所、院内スタッフからの紹介依頼や相談の総合的な窓口となり、「何でもまずはワンストップで受け止める」センターとして、患者の抱える問題を早期に把握し問題解決を図る。
- ②入退院管理を計画的・統括的に実施することで、地域・組合員にとっての限られた病床の有効活用に繋げる。
- ③がん相談窓口として、がん治療や緩和ケアに関する相談をはじめ、就労支援等で患者・家族をサポートする。
- ④患者のヘルスリテラシーを高める為の情報提供をはじめ、さまざまな意思決定支援の為の活動を行う。
- ⑤医療生協の急性期病院として、地域医療機関や組合員との連携で地域包括ケアを実践する。

2. 体制 38名

職種

医師	1名（兼務）
看護師	10名（非常勤3名）
薬剤師	1名
社会福祉士	11名（非常勤2名）
事務	15名（非常勤10名）

3. 活動内容と実績

- ①12月5日に第40回地域医療懇談会を開催しました。地域の医療機関より先生方、関係者方50名の参加がありました。耳鼻咽喉科部長、堤内医師より「耳科手術」、内科部長肥田医師より「内科の展望」について講演しました。また5年ぶりに懇親会を開催し地域の先生方との交流をしました。
- ②多職種退院支援チームの事務局として1)メンバーを講師としたミニレクチャー 2)退院支援が困難だった事例の共有（事例検討）3)検討された事例の経過報告（フィードバック）を行いました。
- ③医療と介護の連携を目的に、地域連携懇談会を開催しました。6月13日シンポジストに神根地域包括支援センター岩淵氏、川口診療所高橋氏に医療介護連携の課題、問題提起をしていただきグループワーク

を行いました（62名参加）。11月20日川口市役所福祉総務課石川氏より「重層的支援体制整備事業について」講義いただき、グループワークで理解を深めました（65名参加）。

- ④障害者雇用総合サポートセンターの方を講師に障害者雇用についての学習会を開催しました。障害の理解と業務上の配慮や接し方のコツなどを部門内全職員が学びました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	熊谷瑛梨 (社会福祉士)	外国人患者の受療権を守る取り組み	11/5-7	国際HPH カンファレンス（広島県）
①	熊谷瑛梨 (社会福祉士)	じん肺・アスペスト外来の取り組みについて	11/5-7	国際HPH カンファレンス（広島県）
③	久保果蓮 (社会福祉士)	急性期病院における若年患者への退院支援から考える～社会問題とMSWに求められる役割～	12/14	埼玉民医連 学術運動交流集会
②	高橋加奈 (社会福祉士)	新人育成の取り組み～新人育成に関わって感じた指導者自身の成長と課題～	1/17	医療活動交流集会
②	水本留美子 (社会福祉士)	無料低額診療事業への取り組み～58事例の振り返り～	1/17	医療活動交流集会

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

会場：ZOOM

入院医事課

- (5) チーム医療への役割発揮 (ファシリテーション能力)
- (6) 病棟移転後の稼働率維持

部責任者 吉岡洋輝

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、入院患者の会計業務、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制12名 (2025年3月末日現在)

職種	人数
事務総合職	7名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	4名

3. 活動と実績等

(1) 入院医事課の病院での役割

- ①入院患者が行われる医療行為をしっかりと収入につなげること。
- ②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメントすること。
- ③データをもとに各病棟の課題を洗い出し改善に向けた提案を行うこと。

(2) 活動

- ①入院患者の早期退院の促進
- ②加算算定率向上に向けた取り組み
(救急医療管理加算、入退院支援加算等)
- ③正しい請求の取り組み
(査定、返戻率の減少、算定漏れ防止の取り組み)
- ④職員が働きやすい職場づくり
(超勤削減、有給休暇の取得推進)
- ⑤システムを活用した業務自動化の取り組み

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 頼られる事務の育成
- (2) 分析・発信力の強化 (ツール・データの活用)
- (3) マネジメント力の強化 (病棟運営・他職種連携)
- (4) 医療の質の分析・課題発見・提起

外来医事課

課長 田中紗代

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制52名 (2025年3月末日現在)

職種	人数
事務総合職	5
事務スタッフ	5
非常勤職員	23
派遣職員	1
当直事務	16

3. 活動と実績等

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント（会議運営・ファシリテーター）することなどがあります。

(1) 診療科受付

① ER

急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、医師補助業務

② 専門外来

乳腺外科、脳神経外科、精神神経科、循環器等、疾患の専門領域を扱う

患者受入れ、予約管理、検査説明および案内

チーム会議の運営

③ 整形外科外来

診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内

診療科会議の運営

④ 産婦人科外来

診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内
診療科会議の運営

⑤ 内視鏡

内視鏡の予約管理、チーム運営

(2) 会計入力

婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算

(3) 総合受付

新患受付、紹介状受付、院内の案内、精算業務

(4) 検査受付

検査受付、患者案内

(5) 電話センター

埼玉協同病院、ふれあい生協病院の電話対応

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連

医療事務課

課長 鶴我秀治

1. 任務、役割

- (1) 地域のニーズを受け止める在宅療養支援病院として機能発揮するため、医事業務全般における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる病院運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けたマネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、各自の総合性を高めながら、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制39名 (2025年3月末日現在)

職種	人数
事務総合職	11
事務スタッフ	4
非常勤職員	25

3. 活動と実績等

予約制やWEB受付の導入、その他院内動線の整備を日々実行し、外来混雑の解消に努めてきました。取組の結果として、各診療科における待ち時間は、埼玉協同病院時代から何れも減少し、円滑な外来運営を構築できています。

病棟運営については、届出事項等を整理し、計画にそって2024年3月より地域包括ケア病棟入院料1の届出に繋げることができました。4月以降本稼働し、常時50床前後、9割以上の病床稼働率で運用されており、各種書類の対応や請求対応を通して役割発揮しています。

(1) 診療科受付

①小児科

- ・診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内

②1階外来カウンター業務 (内科急患・専門外来・外科)

- ・急患外来患者受け入れ、救急対応、転送対応
- ・医師補助業務

- ・糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う

- ・患者受入れ、予約管理、検査説明および案内
- ・チーム会議の運営

③2階外来カウンター業務 (皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科)

- ・診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内
- ・診療科会議の運営

④検査受付

- ・検査受付、案内

⑤北2病棟事務

- ・入退院患者事務対応
- ・クラーク業務

(2) 会計入力

各フロアにおける窓口会計入力業務

(3) 総合受付

新患受付、紹介状受付、院内の案内、精算業務

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)

区分 : ①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連

医療情報管理室

部責主任 長峯光春

1. 任務、役割

- (1) 医療情報・記録の管理。
- (2) 医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
- (3) 診療支援および学術研究活動支援の3つの業務を主として担いながら、医療の質改善のためのPDCAサイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制 7名

職種

- | | |
|-------|----|
| 常勤職員 | 4名 |
| 非常勤職員 | 2名 |

■認定資格

- | | |
|---------------|----|
| 診療情報管理士 | 3名 |
| 院内がん登録実務中級認定者 | 2名 |

3. 概要、特徴、特色

- (1) 過去記録の取り寄せは昨年よりも増加しました。引き続きB型肝炎「特別措置法」、障害年金申請等のための初診時からの記録が必要なケースが一定数発生しています。

医療記録の質管理に関しては、QIの測定値（カンファレンス、総合的な初期計画、健康リスクの評価、適切な診療情報提供）としてフィードバックしました。

(2) 医療コミュニケーション促進

患者と医療者のコミュニケーション促進のためのツール、患者用カルテ閲覧システム「マイかるて」の再開の準備をすすめました。院内の環境整備、患者、利用者へ周知をおこないました。今後、普及をさらにすすめて、多くの方に利用してもらえるようにしていきたいと思います。

(3) QIをはじめ診療データを活用した改善支援

3回のマネジメントレビューへのインプット情報提供に加え、病棟会議に参加し医療の質目標に関わるデータの提供を行い、改善を支援しました。

その他、医師、看護師、リハビリ等からの診療データ抽出依頼に日常的に応えました。

(4) 実績（2024年1月～12月）

過去記録取り寄せ・貸出（紙カルテ）	74件（前年比83.1%）
病歴登録管理	7,837件（前年比101.6%）
退院時要約管理	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉協同病院 7日以内完成 78.7% 14日以内完成 95.6% ふれあい生協病院 7日以内完成 88.3% 14日以内完成 98.6%
死因登録	289件
院内がん登録	798件（前年比91.3%）
カルテ開示	67件（申請54、法照会13）

4. 今後の展望・次年度に向けて

クオリティマネジメント（QM）部としてデータを活用した部門・チーム横断的な質改善活動を促進します。QI、BSCの評価指標の測定を確実に行い、マネジメントレビューに適切にインプットし有効なPDCAを回します。また求められる診療実績データ、その他医療の質改善（研究活動を含む）や専門資格取得等のためのデータ抽出・提供、改善活動支援や、医療活動の実績としての統計作成の精度向上と合理化を追求します。

チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。法的適切性・医療安全、効果的で標準的な医療、患者中心・人権尊重の観点からの警鐘症例に気づき、医療安全管理室とも協力して安全施策につなげられるよう力量向上に努めます。

2023年8月に2病院化がされ、電子カルテ更新・情報システム構成の大幅な変更がありました。変更に合わせて紙媒体帳票・記録の運用をできる限り削減し、退院までに医療記録の完成度を高める業務へと再構築し、病院全体の記録および記録関連業務のスリム化と質改善を進めてきました。今後も電子カルテ機能を十分に活用して記録、データの管理を行っていきます。

経営企画室

課長 余田真央

1. 任務、役割

〈職務〉

1. 経営

- ①管理部の指示の下、必要な調査・分析を行います。
- ②経営分析を行い、経営的な企画・政策立案を管理部に対して行います。
- ③経営委員会の事務局として、病院管理部への適切な情報提供や決められた方針を具体化します。
- ④診療報酬改定の情報提供などをタイムリーに行い、診療報酬改定の準備をすすめ職員への周知徹底、啓蒙活動を行います。
- ⑤全職員参加の経営をすすめるために、保険請求の勉強会を開催し、報酬につながる業務の仕方について協力を求めます。
- ⑥当院にあった経営分析、業務改善のツールやサービスの研究、紹介、導入のフォローを行います。
- ⑦部門、部門責任者に向けた経営報告、経営分析、改善事項の報告と共有します。
- ⑧経営企画部門からみた、医療の質の評価や向上への取り組み、活動します。

2. 広報

- ①病院広報紙「ふれあい」を定期発行し、組合員・患者の知りたい情報、地域の連携医療機関・介護事業所などに提供すべき情報等を、タイムリーに発信します。
- ②ホームページの更新、運営管理を行います。
- ③病院主催の市民公開講座等、各委員会やチームと協力して病院の広報・宣伝を行います。
- ④効果的な広報の活用を進め、研修医募集、看護師募集等の職員採用情報も広報活動します。

2. 体制 1名 (2024年3月末日現在)

職種	人数
事務	1

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

- ・経営委員会を主催し、定例会議を行いました。第一四半期、上半期経営検討会、予算検討会を開催しました。

・診療報酬改定の対応を主導し、当院で算定できるもの、努力すれば算定できるもの、算定できないものをチェック、院内に発信し、適切に算定できるように働きかけました。

・建設分野では、病院全体の廃棄物処理を担当し、予定通りに対応できました。また、5月には取り壊しになる建物を職員OBに見学してもらうため、「さよならB館見学会」を開催しました。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

特になし

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ・経営分野では、2025年度は予算通りの収益が確保するため、全員参加の経営を進めます。また、医療資源を効率的に活用できる取り組みを進めます。
- ・広報分野では、ホームページや病院広報誌で埼玉協同病院、ふれあい生協病院を地域の方によりわかりやすく新しい情報を発信します。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

- 医師の事務作業軽減に寄与し、医師が診療に専念できる環境を作ります。
- 医師の業務負担軽減に関する問題の調整を行い、医療の質向上に貢献します。

【職務】

- 書類作成支援業務
- 症例登録・実績管理業務
- 外来診療補助業務
- 病棟診療補助業務
- 職員図書業務と文献サービス

2. 体制25名 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
事務	5	常勤
事務	19	非常勤

3. 活動と実績等

(1) 書類作成支援業務

書類（各種診断書・証明書、労災保険、介護保険、生活保護法等に基づく書類）の下書きや医師サマリーの作成支援。

(2) 症例登録・実績管理業務

各種調査・サーベイランスの実務支援、再生医療や人工関節手術の症例入力、JSA、NCD、JOANR の登録等、主に外科分野の症例データーの登録。

データーは医師の学会発表、研究、資格申請等に活用されています。

(3) 外来診療補助業務

①外来診察時の補助（カルテ代行入力、診療の振分け、予約や検査案内、医師からの依頼事項対応等）。

②外来診療予約準備業務（カルテチェック、データ準備）。

③電子カルテ等操作支援。

(4) 病棟診療補助業務

①入院時必要書類の準備と確認（入院診療計画書や同意書の準備、カルテへの取り込み）。

②クリニカルパス登録。

③退院時必要書類の準備・説明。

(5) 職員図書室の管理と文献サービス

図書の貸出・返却管理、電子図書の利用方法案内、文献検索と取り寄せ等により医師の学術活動の支援を行いました。

(6) 医学的知識と事務処理能力の向上

短期と長期の育成課題を明確にしたキャリアパス、キャリアラダーをもとに、医師事務作業補助者のスキルアップに取り組みました。毎月の学習会、夕会時の学習会で知識の共有化を図りました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	加藤莉央 (事務)	2024年度 入院患者満 足度調査ま とめ	QMセンター 2025年1月1 7日	医療生協さ いたま協同 病院（埼玉 県）

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研

医局事務課

部責任主任 根岸千尋

1. 任務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療が提供できるよう支援します。初期臨床研修医および専攻医の対応、研修プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制 5名 (2024年3月末日現在)

職種

事務総合職 3名
非常勤職員 4名

3. 活動と実績等

- 医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。
- 初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援（電子カルテ操作説明）を行いました。
- 初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に行修全体の管理を行い、研修修了に向けた支援（研修システムへの登録・確認）を行いました。
- 基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。
- 後継者の確保・育成に対して、初期研修医7名、専攻医4名（連携含む）の入職が決まりました。
- 医師の働き方改革への取り組みとして、業務の見直しを行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り組みます。全職員が初期・専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

- 情報システムの適切な運用を行います。
- 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3名

職種

事務総合職 2名 うち1名医療情報技師
管理栄養士 1名

3. 概要、特徴、特色

- 実績
 - 2月に電子カルテの2回目のバージョンアップを実施
 - テンプレートや文書の作成。デジタル問診の運用支援。
 - 電子カルテと連携する部門システムの導入支援。
 - 患者通院支援アプリ「Wellcne」の導入支援
 - ふれあい生協病院で「まいカルテ」の再開。
 - サイバーセキュリティ対策整備。BCP策定
- 電子カルテ委員会
電子カルテ委員会と連携し、バージョンアップや機能改善の事務局機能を担っている。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

- 外部研修
 - 電子カルテユーザーフォーラム
 - オンラインセミナー セキュリティ対策 など

5. 今後の展望・次年度に向けて

電子カルテ更新から1年半がたち、大きなシステムトラブルもなく安定した稼働が出来きました。患者支援アプリ「Wellcne」は約1年2病院で600名以上の方に登録いただいている。要望の多かった「まいカルテ」も再開することができました。カルテは医療従事者だけのものではありません。患者の知る権利をこれからも追求していきます。

また、現在、医療機関にはサイバーセキュリティ対応が求められており、有事の際の事業計画書を策定しました。電子カルテ委員会で机上訓練を実施しました。そこで出た改善点を来年度以降再検討していきます。

資材課

課長 小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類（印刷物）・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制 2名

職種

事務総合職 2名

3. 活動と実績等

(1) 診療報酬、償還価格引下げの影響率88%以上の回復することができました。

①償還交渉会議を2回、業者面談を1回、10月まで計画的に進めることができ11月に法人全体で遡及を行いました。

②目標は達成したが償還交渉は難航続きとなりました、その代わりに償還妥結後、整形業者各社と個別交渉を5回行い、整形材料消耗品を価格削減させることができました。

削減額929,055円/年

（ストライカー1回、ジンマー2回、シンセス1回）

③原材料費などにより値上げする業者に対しても価格交渉することで費用削減に貢献できました。4月-3月70社のメーカー・業者と価格交渉。（メーカー希望値上げ額を阻止できました）47品目の費用削減を実施。

製品切替34品目 - 14,400,000円/年

価格低減13品目 - 28,320,000円/年

また、相見積書がない購入申請書100件以上の相見積もりを取り価格削減に貢献しました。

④整形材料インプラントのレンタル料・配送料新設に伴い、医師に報告。医師にメーカー変更を依頼し他メーカーのレンタル料・配送料のかからないインプラントにてもらい値上げを阻止できました。

(2) 各部門の長期滞留品を削減することにより、定数適正化することができました。

①埼玉協同病院（評価B・C3%UP）1位専門外来・2位南4病棟・3位東2病棟

長期滞留品金額：1,225,858円 → 429,188円
-796,670円削減
定数：18,893,924円 → 17,904,136円 - 989,788円
削減

- ②ふれあい生協病院（評価B・C3% UP）1位処置室・
2位薬剤科・3位小児科外来
長期滞留品金額：198,655円 → 90,744円
-107,911円削減
定数：1,823,158円 → 1,745,366円 - 77,792円削減
③未納品率：0.12% 未納品率3%未満にできました。
(4) 5月の引越しに伴い、SPD倉庫の定数見直しと棚整理（環境整備）をこの機会に行いました。
① SPD倉庫の適正定数化（目標値 定数金額20%削減）
2024年 5月在庫 877,000円
2025年 1月在庫 699,000円 - 20.3%減少
②棚本数を2本減らせた。

- (3) 消耗品・印刷物の価格見直しを行い費用削減することができました。
①消耗品：再生利用継続。文具などをシェアリング。
②消耗品：上位50品目交渉14品目 - 73,205円（年間）削減。
③印刷物：発注依頼品から再見積もりして価格交渉。
④消耗品：カタログの表示価格より全体で2-7%軽減。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育、研修、研究活動

- ①全日本民医連 医療材料購入担当者 ZOOM会議に参加
②(財)医療情報システム開発センター「MEDIS-DC」主催の『医療材料物流改革サプライチェーン構想』に参加
③医療法人恒尚会顧問行本氏の『病院経営への貢献という視点から見る用度課の動きと交渉力』の講義に参加

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

- (1) 院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。
(2) 主な資格：ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者（乙4類）、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者（液化酸素）甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者（ビル管理士）、第2種電気工事士。

2. 体制 5名 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
臨床工学技士	1名	
事務総合職	1名	
ボイラー技士	1名	
ドライバー	2名	
委託業者	施設：明新メンテナンス株式会社 清掃：株式会社 ボイス 警備：豊国警備保障株式会社 バス：株式会社 エム・ビー	

3. 活動と実績等

エネルギー使用量		前年比
電気	6,395,382kwh	119.4%
ガス	471,001m ³	88.7%
水	59,934m ³	91.3%
CO ₂ 排出量	4,124t	109.1%

- (1) 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。
(2) エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。
(3) 非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

総務課

課長 我妻真巳子

1. 任務、役割

- (1) 総務課は、人事業務・福利厚生・経理・庶務・業務委託など、職員が働くために必要な環境や制度についてサポートしています。
- ①人事業務 職員の募集、契約実務、入職時オリエンテーション、履歴書や免許証、職員名簿の管理など。
給与関係では就労システムの様々な問い合わせ対応。
- ②庶務 院内の会議室や貸出用物品管理（パソコンやデジカメ、zoom アカウント）、郵便物や宅配物の受付と仕分け、慶弔業務、夜勤勤務者食の手配など。
- ③福利厚生 ユニフォーム、職員寮の管理、院内保育所利用案内、職員駐車場調整、さいたま共済会、有給休暇や特別休暇等の対応。
- ④経理 入出金管理、職員小口、出資金回収、集計。
- ⑤業務委託 売店、床屋、病室のテレビ、自動販売機、絵画展示物など
- (2) 職員が気軽に相談でき、利用しやすい総務課を目指してきました。書類の作成、職員寮の入寮相談、健康保険の加入相談や手続き、育児休暇について、出資金、落とし物の問い合わせなど様々な用件で窓口に訪れます。
- (3) 病室のテレビ、wifi、院内床屋さん、売店や自動販売機、患者用駐車場の窓口を行っています。

2. 体制 7名

職種

事務総合職	2名（うち1名育児休業中）
事務スタッフ	2名
非常勤職員	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①新しい総務課が完成し、引越しと埼玉協同病院とふれあい生協病院 2病院の総務課として運用の見直し・整備を行いました。
- ・新しい部門コードの設定
 - ・職員更衣室、ユニフォーム室の移設
 - ・病棟のピクトグラム導入による床頭台入れ替え
 - ・入退室管理システム導入による職員や業者用のセ

キュリティカードの準備と使用開始

- ・2病院に対応する職員名簿管理システムの整備
- ②退職者アンケートの実施・集計・分析を行い、情報提供を行いました
- ③働くものための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- 埼玉協同病院とふれあい生協病院 2病院の1総務課として円滑に機能し、職員、組合員、業者が安心して病院が利用できるよう対応、サポートします。
- ・業務を整備し、他部門と連携して職員が働きやすいと思える職場づくりを目指します。
 - ・職員アンケートの実施、情報収集、調査内容の分析を継続して実施し、働きやすい環境づくりを行います。

健康まちづくり課

部責任主任 工藤昇一

1. 任務、役割

健康まちづくり課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、地域へ医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、職員・組合員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 3名

職種

事務総合職 3名

3. 担当地域 (川口市)

南部A ブロック (10支部)	木曽呂・東内野、神根東、道合・神戸、 根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、 芝西、伊刈・芝
南部B ブロック (7支部)	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、 安行、安行慈林、新郷

4. 概要、特徴、特色

- (1) 健康づくりの場や、誰もが気軽に集まれる居場所を地域に広げ、人と人をつないでいく、まちづくりのコーディネートをしていきます。
- (2) 暮らしの中で発生する「困った」へのアプローチを行う為に、「(県南地域版) こまろごと対応安心ネットワークシステム」を推進します。
- (3) 新病院の建設とその目的を、組合員・職員とともに、多くの地域住民に知らせ、事業・活動への参加者を増やします。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 医療生協でやりがいをもって活動する活動協力者を増やしながら、安心して住み続けられる地域づくりを進めます。
- (2) 建設事業と活動を通じて、地域に医療生協を広げます。
- (3) 院内の他職種や他事業所との「仕事の見える化」を互いに行いながら、日常業務の中での連携を進めて行きます。

つくし保育所

主任 丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育、も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制 19名

職種

保育士	15名	(うち常勤職員 4名、 事務スタッフ 1名)
保育助手	3名	
調理師	1名	

3. 概要、特徴、特色

- (1) 子育て支援チームのメンバーとして地域の親子を対象に子育て講座を開催しました。保育士として、ベビーマッサージ、イヤイヤ期の対応、子どもと遊ぼうのテーマで計5回実施しました。昨年に引き続き思春期の子どもを持つ親への支援として思春期コミュニケーション講座を3回実施しました。
- (2) 保育の質向上を目指して、職場全体で保育に関する様々な学習会を実施しました。子どもへの対応、子どもの発達、危険な虫、接遇、心理的安全性、他の学習会を合わせて12回実施し、新しい知識や幅広い知識を得ることができ、必要に応じて保育に反映することができました。
- (3) 保育所の安全への取り組みとして、毎月の避難訓練に加え、乳幼児のBLSの実施訓練を3回実施しました。救急時の対応と連絡方法など確認しながら訓練を行いました。他園で起きた重大事故事例の学習を3回実施しました。事例を学ぶことで、他人事ではなく自分ごとと考えることができ、また内容を詳しく知ることで事故防止対策を考え実践することができました。
- (4) 実績
 - ①在籍児数: 23人
 - ②臨時保育児実数: 36人
(年間延べ数 528人、月平均44人)
 - ③夜間保育児実数: 10人

(年間延べ数 131人、月平均 10人)

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 地域や職員のニーズに合った子育て支援に取り組みます。
- (2) 専門職としての資質向上、質の高い保育を目指します。
- (3) 安全対策、感染症対策を強化して子どもの安全を守ります。